

安全・技術のシンポジウム 建災防福岡県支部直方分会



建設業労働災害防止協会福岡県支部の直方分会（谷口正晴分会長）は21日、安全と技術に関するシンポジウムを開催した。写真。パネラーと会場が一体となって進められたパネルディスカッションでは、災害防止のための各種対策に係る話だけでなく、交通誘導員の設計労務費や積算上の

安全対策費にまで話題が及ぶなど、安全の構築に向けて官・民による本質的で、真剣な討論が展開された。シンポジウムは、建災防福岡県支部の直方分会が、初めて開催するもの。遠賀川建設組合連合会、(株)福岡県土木組合連合会直方支部が協賛。建設業や行政機関の関係者

など約170人が会場を埋めた。谷口分会長は冒頭の挨拶で、今回の取り組みについて「安全第一や技術による品質の向上とともに、我々の生産効率の向上に係る話を含め、実効性のあるものにしてきたいと考えた」等と説明した。

シンポジウムは、福岡労働局の橋本安全課長による基調講演とともに、建設工事の事故防止のための重点対策に係るパネルディスカッションを実施。パネラーは▽山田直方労働基準監督署長▽深町国土交通省遠賀川河川事務所副所長▽義経直方県土整備事務所長▽篠原直方市上下水道・環境部長とともに、谷口分会長が務めた。ディスカッションでは、まず各パネラーが災

害防止等に係る所見について語り、山田署長は熱中症対策に係る注意点等、深町副所長は九州地方整備局における本年度の工事事務事故防止対策、義経所長と篠原部長、谷口分会長は実際の災害事例に基づく防災対策の注意事項等に言及した。

引き続き、設定された課題に対して、会場からの質問を受け付け、パネラーがそれに答えるかたちでディスカッションを展開。交通事故防止や重機事故防止の重点対策、足場や法面からの墜落事故防止の重点対策、安全活動の評価、危険予知訓練、安全費の問題、建災防・CPDS講習の評価、安全活動の実施等の議題に関し、議論が交わされた。